

(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	関 東 農 政 局
-----	-----------

都道府県名	千葉県	関係市町村名	みなみぼうそうし あわぐんとみやままち 南房総市 (旧安房郡富山町)
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	いわい 岩井
事業主体名	千葉県	事業完了年度	平成17年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区は、事業実施前は全くの未整備地区で、現況平均区画は5a程度、狭小な道路、用排水兼用の土水路で田越しでの排水を行い、農地の汎用化と営農の機械化はまったく望めず、生産性の低い農業経営状況となっており、事業実施により農業生産の安定化を図ることを目的として本事業を実施した。

受益面積：89ha

受益者数：327人

主要工事：整地工 89.2ha、用水路工 20.8km、排水路工14.2km、道路工22.0km  
暗渠排水工 79.8ha

総事業費：2,565百万円

工期：平成5年度～平成17年度(計画変更：平成17年度)

〔項目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 農作物の生産量の増加

- ・ 用排水施設の整備による用水の安定供給、ほ場の排水改良など作物の栽培条件が改善されたことにより、新規作物の導入が可能となった。

〔作付面積の変化〕(評価時点資料：県ほ場整備地区の営農推進による調査結果)  
(平成5年)

水 稲	：100.3ha (事業実施前)	→	61.3ha (計画)	→	77.4ha (評価時点)
食用なばな	：0ha (事業実施前)	→	4.2ha (計画)	→	8.2ha (評価時点)
野菜類	：0ha (事業実施前)	→	5.8ha (計画)	→	7.1ha (評価時点)
花卉類	：0ha (事業実施前)	→	6.7ha (計画)	→	3.1ha (評価時点)
ピ ン ン	：0ha (事業実施前)	→	0ha (計画)	→	0.6ha (評価時点)
イタリアライグラス	：0ha (事業実施前)	→	4.2ha (計画)	→	0.3ha (評価時点)
青刈トウモロコシ	：0ha (事業実施前)	→	11.5ha (計画)	→	0.1ha (評価時点)

※評価時点は平成22年のデータを使用している。

〔単収の変化〕(評価時点資料：農家聞き取り)  
(平成5年)

水 稲	：436kg/10a (事業実施前)	→	476kg/10a (計画)	→	531kg/10a (評価時点)
-----	--------------------	---	----------------	---	------------------

2 営農経費の節減

- ・ 区画整理により道路、排水路、用水路が整備され、大型農業機械の導入が図られるようになったことから、営農労働時間が減少し、営農経費が節減されている。
- ・ 主な作業時間※(耕うん、代かき、田植え、収穫)の変化  
※準備、移動、積込み、運搬作業を含む。

〔労働時間の変化〕(評価時点資料：地区内農家聞き取り)  
(平成5年)

水 稲	：40hr/10a (事業実施前)	→	11hr/10a (計画)	→	8hr/10a (評価時点)
-----	-------------------	---	---------------	---	----------------

〔機械経費の変化〕(評価時点資料：地区内農家聞き取り)

(平成5年)

水 稲：127千円/10a (事業実施前) →81千円/10a (計画) →66千円/10a (評価時点)

### 3 維持管理費の節減

- ・ 用水系統が整備され、草刈・清掃等の管理費管理労力が軽減され、維持管理費が節減されている。

[維持管理費の変化] (評価時点資料：地区内農家聞き取り)

(平成5年)

10百万円/年 (事業実施前) → 8百万円/年 (計画) → 2百万円/年 (評価時点)

## イ 事業効果の発現状況

### 1 事業の目的に関する事項

- ・ 事業の実施により、集団化と水田の大区画化が図られ、大型農業機械の導入が可能となり、効率的な農業経営が可能となった。
- ・ 用排水施設、暗渠排水の整備により、水田の乾田化、汎用化が図られ、新規作物である食用なばなが導入された。
- ・ 農道が整備され、地域の生活道路としての利便性も向上した。
- ・ 受益者に対するアンケートの結果、土地改良施設の利便性について「大変良くなった」又は「良くなった」が66%との評価を得ている。

### 2 土地改良長期計画における事業効果の発現状況

【事業を契機とした担い手の育成及び担い手への農地利用集積】

(評価時点資料：県「農業農村整備事業効果及び利用集積調査結果」)

(平成5年)

集積面積：1.5ha (事業実施前) → 35.6ha (評価時点)

集積率：1.5% (事業実施前) → 38.2% (評価時点)

認定農業者：0名 (事業実施前) → 4名 (評価時点)

※評価時点については、事業実施主体から提供のあった最新時点 (H20年) のデータを使用している。

【水田の汎用化により、新たな作物の導入の促進及び、耕地利用率の向上】

(平成5年)

耕地利用率：100.0% (事業実施前) → 112.3% (評価時点)

※評価時点については、事業実施主体から提供のあった最新時点 (H20年) のデータを使用している。

### 3 その他

- ・ 地区内にある館山自動車道路の道の駅「富<sup>ふ</sup>楽<sup>ら</sup>里」の直売所向けの作物のほか、道の駅周辺に景観作物の作付けを行い、訪れる人を楽しませている。
- ・ 新たな取組として、地区内の企業 (異業種) が野菜の栽培から直売所への出荷を行っており、更なる地域の活性化、雇用の確保につながることを期待される。

### 4 費用対効果分析の算定結果

妥当投資額 (B) 3,054百万円

総事業費 (C) 2,978百万円

投資効率 (B/C) 1.03

(注) 投資効率方式により算定

## ウ 事業により整備された施設の管理状況

- ・ 岩井土地改良区により用排水施設等は適切に利用、管理が行われている。

## エ 事業実施による環境の変化

### 1 生活環境

- ・ 受益者を中心とした地域住民を対象としたアンケートによると、事業の実施により生活環境が良くなったとする回答が56%と半数以上あり、一定の効果を上げていると考えられる。

### 2 自然環境

- ・ 農村の景観についてのアンケートによると、事業の実施により景観が良くなったとする回答が75%あり、大きな効果を上げていると考えられる。

### 3 農業生産環境

- ・ 本事業の実施後の受益地以外を含めた農作業の状況についてアンケートを行った結果、「農作業にゆとりが生まれた」という回答が66%あったことから、地域の農業生産環境において一定の効果を上げていると考えられる。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- ・ 旧富山町の世帯数は横ばい（平成5年：1,974戸→平成17年：2,024戸）であるが、人口は減少傾向（平成5年：6,586人→平成17年：5,751人）にある。（資料：千葉県統計年鑑（H5）（H21））
- ・ 平成18年3月に周辺の5町1村（富浦町、白浜町、千倉町、丸山町、和田町、三芳村）と合併し新たに「南房総市」となった。

2 地域農業の動向

- ・ 旧富山町の農家数は平成5年に比べ平成17年では46%減少している。（平成5年：750戸→平成17年：405戸）
- ・ 専業別農家数では専業農家（平成5年：158戸→平成17年：123戸）に比べ、兼業農家（平成5年：592戸→平成17年：282戸）の減少傾向が強くなっている。（資料：平成5年時の数値は千葉県統計年鑑、平成17年度は農林業センサス2005）

カ 今後の課題

- ・ 本地区は県内有数の観光地域である南房総地域にあり、地区内には館山自動車道の「道の駅 富楽里」があることから、こうした地域の特性を生かして観光や直売所等の連携を進め、農商工が一体となった地域の営農の実現に向け推進を図っていく必要がある。
- ・ また、今後農家戸数の減少や高齢化の中、土地改良施設についても地域一体となった維持管理体制を確立する必要がある。

事後評価結果

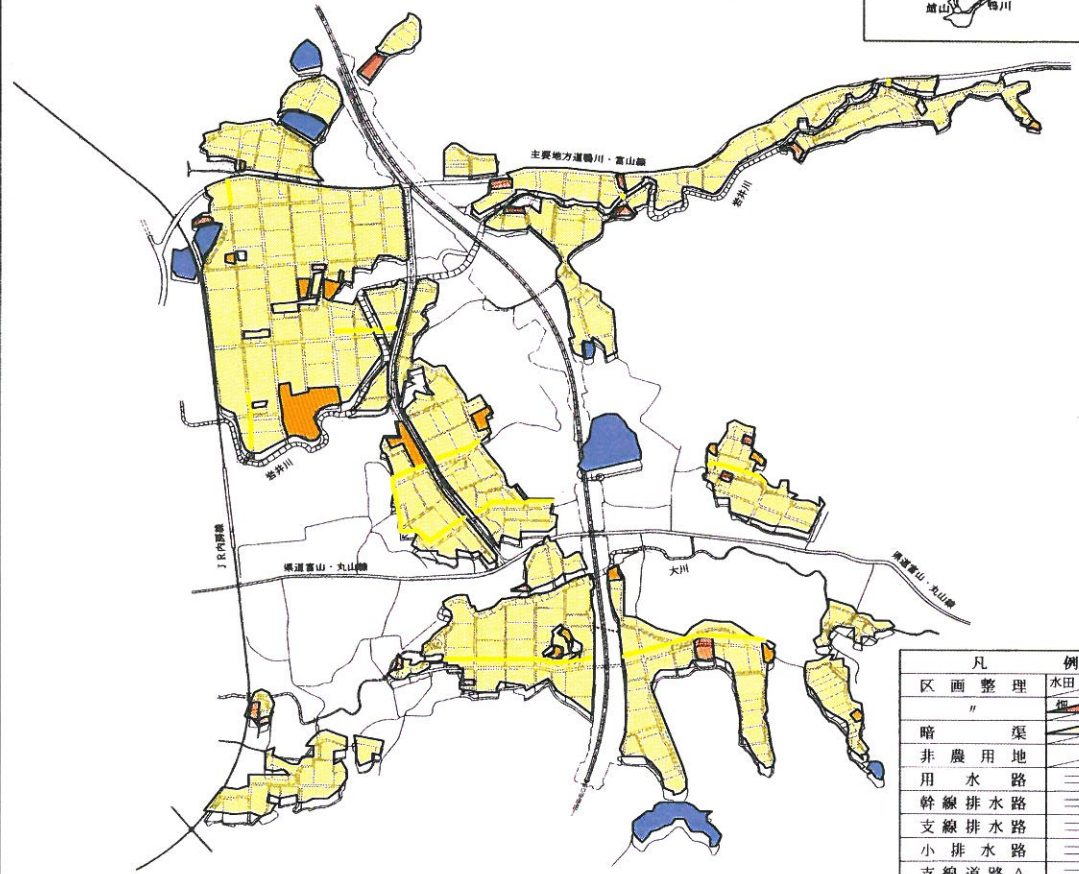
- ・ 排水改良及び農道整備により、大型農業機械の導入が可能となり、営農経費節減と農業生産性の向上が図られた。
- ・ 農地の汎用化が図られ、新規作物である、食用なばなが導入された。
- ・ 本事業を契機に担い手が育成され、農地の利用集積が進み、認定農業者数も増加した。
- ・ 今後も営農条件が改善された農地を有効活用するため、新たな担い手の育成に努め、一層の農地利用集積を推進することや、維持管理体制について地域一体となった施設管理体制の定着に向け、取り組む必要がある。

第三者の意見

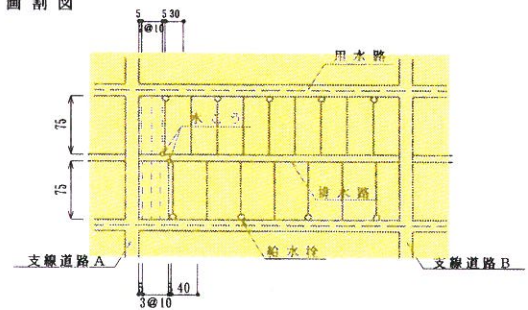
- ・ 事業実施により、単収増加と労働時間が軽減され、担い手への農地集積が図られているとともに認定農業者も増加し、食用なばな等の新規作物の導入も図られている。
- ・ 今後は、県内有数の観光地域という特性を活かした農商工が一体となったポテンシャルの高い地域農業への取組が望まれる。

計画一般平面図

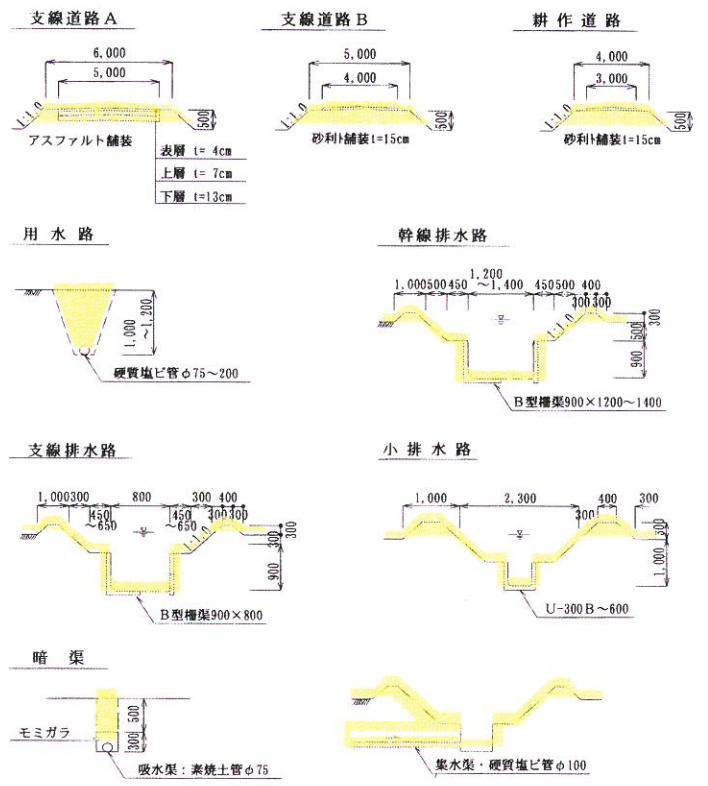
位置図



標準区画割図



標準構造図



凡		例	
区画整理		水田	
"		畑	
暗渠		渠	
非農用地		用水路	
用水路		幹線排水路	
支線排水路		支線排水路	
小排水路		支線道路A	
支線道路A		" B	
" B		耕作道路	
既設排水路		溜水池	
" 道路		頭首池	
関連事業(排水)		揚水機場	
" (道路)			

## 費用対効果分析に関する説明資料

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	千葉県	地区名	岩井
-----	-------------	-------	-----	-----	----

### 1. 費用便益比の算定

(単位：千円)

区分	算定式	数値	備考
総事業費	①	2,978,293	
年総効果額	②	171,317	
廃用損失額	③	-	廃用する施設の残存価値
総合耐用年数	④	34	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0561	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数
妥当投資額	⑥=②÷⑤-③	3,053,772	
投資効率	⑦=⑥÷①	1.03	

### 2. 年効果額の総括

(単位：千円)

項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	34,049	農業用排水施設の整備による単収の増加、作付体系の変更による収益の増。対象作物：水稻、大豆 etc
営農経費節減効果	71,397	ほ場整備事業等による労働の省力化、機械経費の節減。対象作物：水稻
維持管理費節減効果	6,791	用水施設の改修に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、道路 etc
更新効果	2,024	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路 etc
水田貯留効果	40,508	区画整理で畦畔が高くなること等により、一時貯留機能が向上し、洪水被害の軽減
非農用地創設効果	4,327	非農用地創設により公共用地取得作業費の節減
安全性向上効果	102	農道における安全施設による安全性の向上
文化財発見効果	1,377	区画整理に伴う文化財の発掘・保存等の実施
地籍確定効果	1,257	換地作業による国土調査費用の節減
労働節減有効活用効果	9,484	事業により節減された労働力が有効活用される効果
計	171,317	

### 3. 評価に使用した資料

#### 【共通】

- ・農林水産省構造改善局計画部監修（1988）「[改訂]解説土地改良の経済効果」大成出版社

#### 【費用】

- ・当該事業費及び関連事業費に係る一般に公表されていない諸元については、千葉県農林水産部耕地課、安房農林振興センター調べ（平成22年）

#### 【便益】

- ・千葉県（平成17年）「岩井地区地区 土地改良事業変更計画概要書」
- ・関東農政局千葉農政事務所「千葉県農林水産統計年報（農林編）」
- ・農林水産省大臣官房統計部（平成17年）「農林業センサス」
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日農林水産省農村振興局企画部長通知（一部改正：平成22年3月31日農林水産省農村振興局整備部長通知））
- ・効果算定に必要な各種諸元は、千葉県農林水産部耕地課調べ（平成22年）
- ・県 平成20年度 農業農村整備事業効果及び利用集積調査結果